

第44回全国公民館研究集会  
第57回東海北陸公民館大会富山大会  
第16回富山県公民館大会  
記念講演

# 講演資料

講師

富山県射水市大島絵本館

館長 立野 幸雄 氏

令和4年9月8日（木）



# 富山の自然と文学 ～近現代文学（散文）を中心として～

射水市大島絵本館 館長 立野 幸雄

## 1 富山の文学の土壌

※文学作品←人々の生活（日々の営み） 生活←その地の環境（自然・文化）の影響  
多彩な自然と文化は多彩な文学作品を生み出す。

### (1) 豊かな自然

- ・立山から富山湾の高低差四千メートル[山岳・山麓・農村・市街地・海岸・海]  
河川→早月川・**流程 27 km**、平均傾度 8.3% 片貝川・**流程 20 km**、平均傾度 8.5%  
(セーヌ川・780 km 手取川・72 km 九頭竜川・116 km 長良川・166 km 富士川・128 km)  
富山湾→最深部・**1200m以上** 日本三大深湾(駿河湾・相模湾)  
海流→湾内に対馬暖流が流入 日本海中央にリマン寒流 水深300m→深層水  
魚種→暖流系・冷水系・深海魚 **500種**(日本海800種) 天然のいけす  
気候→対馬暖流の影響 都市部 2月 平均**2.5～3度** 最低 **-1度**  
(長野市 2月 平均-0.6～-4度)

農作物→・林檎の南限、日本梨の北限

### (2) 多彩な文化→日本の東西文化の共存圏

- ・ソバ文化圏とウドン文化圏 ・正月雑煮の切餅と丸餅

## 2 近・現代以前の主な文学作品

### 【上代】

- ・『万葉集』と大伴家持(在任746～751)

家持は、全20巻のうち巻17～巻19に自身の歌日記を残し、『万葉集』の全歌数4516首のうち**473首が家持ちの歌**で万葉歌人中第一位である。また、『万葉集』で確認できる27年間の歌歴のうち、**越中時代5年間の歌数が223首**で、彼の全作品の**45%強**である。越中万葉歌330首と越中国の歌4首、能登国の歌3首は、越中の古代を知るうえでのかけがえのない史料となっている。

- ・立山地獄谷信仰

「日本国の人びとは、罪を造って死ぬと、この立山地獄におちる」

『本朝法華験記』の(127) 平安中期、鎮源によって書かれた法華経効験説話集

『今昔物語』(巻17の27話 巻14話の7・8話)

### 【中古】

- ・和歌

『新葉集和歌集』宗良親王撰 **準勅撰和歌集** 1381年成立。20巻1420首

『李花集』宗良親王の**家集**。2巻。1374年頃成立か。親王の歌約900首等

(宗良親王)

後醍醐天皇の皇子。延暦寺では尊澄法親王と称し、天台座主となった。建武政権瓦解後に還俗、南朝勢を率い数十年に渡り、各地で転戦、越中滞在は3年に及んだ。

- ・謡曲

『善知鳥(うとう)』世阿弥作 ← **立山地獄谷信仰**

『藤』日吉安清作 ← 『万葉集』の「多祜の藤」(藤の名所・氷見の藤波神社)

『山姥』世阿弥作 (上路)

- ・軍記物

『太平記』(巻11 越中守護自害事付怨霊事) 北条氏滅亡時、越中守護・**名越時有**は二塚で恒性皇子を殺害し、放生津で滅亡する。その折り、妻女たちも入水して果てる。

## 【中・近世】

- ・俳句、漢詩 越中俳壇→浪化(井波瑞泉寺の住職) 芭蕉の直弟子
- ・漢詩 室鳩巢、廣瀬旭莊、頼三樹三郎等が越中を訪れて漢詩を詠じている。
- ・『奥の細道』松尾芭蕉 元禄2年に越中を訪れるが、知人がいないこともあり、2泊3日で慌ただしく通過する。

## 3 近・現代の主な文学作品

### 3 自然と文学

#### (1) 山と溪谷

- ア 針ノ木(越信)新道・有料→後立山連峰針ノ木岳の鞍部・針ノ木峠付近が舞台
- ・ウエストン『日本アルプス・登山と探検』(明治29年)
  - ・泉鏡花『さらさら越え』(明治32年)・大仏次郎『旅路』(昭和27年)
  - ・安川茂雄『黒部奥山軍記』(昭和35年)
  - ・河東碧梧桐、長谷川如是閑、窪田空穂、田部重治、中西悟堂等が訪れ、紀行文で紹介。

#### イ 信仰と電源開発→立山・剣岳と黒部峡谷

##### 〈立山・剣岳〉

- ・新田次郎『剣岳・点の記』(昭和52年)

##### ※【新田次郎の山岳関係作品】

- ・『チンネの裁き』『山の鐘』(昭和34年)・『薬師岳遭難』(昭和38年)
- ・『孤高の人』(昭和43年)

- ・田部重治『山と溪谷』(昭和4年)・幸田文『崩れ』(平成3年)

- ・野村尚吾『アルプスの見える庭』(昭和33年)

- ・森村誠一『恐怖の骨格』(昭和48年)

- ・大井冷光『天の一方』(明治42年)→山と童話

##### ※【大井冷光の関係作品】

- ・『立山案内』(明治41年)・『越中お伽噺第一・第二編』(明治42年)
- ・『お伽七ツ星』(大正5年)・『ねんね子話』(大正8年)・『蜜柑船』(大正9年)・『あわて木兎』(大正10年)・『母のお伽噺第一・第二編』(大正8,9年)

##### 〈薬師岳〉

- ・中河与一『天の夕顔』(昭和13年)・坂東眞砂子『曼荼羅道』(平成14年)

##### 〈黒部峡谷〉

- ・冠松次郎『黒部』(昭和3年)・吉村昭『水の葬列』『高熱隧道』(昭和41年)

- ・木本正次『黒部の太陽』(昭和42年)

##### ※ その他の電源開発〈庄川・小牧ダム〉

- ・高見順『流木』(昭和12年)・三島由紀夫『山の魂』(昭和30年)

- ・山田和『瀑流』(平成14年)・山田智彦『湖の墓』(昭和54年)

#### (2) 海と浜

##### ア 県西部

- 伏木・堀田善衛『夜来香』(昭和26年)『鶴のいた庭』(昭和32年)

『若き詩人たちの肖像』(昭和43年)

- ・室井犀星『美しき氷河』(大正9年)『あら磯』(大正14年)

- 氷見・横光利一『紋章』(昭和9年)・野村尚吾『浮標燈』(昭和49年)

- ・木崎さと子『沈める寺』(昭和62年)『光る沼』(平成8年)

##### イ 県東部

- 入善・柏原兵三・『祝言』(昭和43年)『長い道』(昭和44年)・『毛布譚』『浸蝕』(昭和45年)・『座棺』『同級会』『ある男の生涯』(昭和47年)

黒部・田中冬二『青い夜道』(昭和4年)

魚津・山村静『蜃気楼の町』(昭和44年) ・横山源之助『貧しき小学生徒』(明治27年)

ウ その他

・泉鏡花『舵取』(明治28年) ・森鷗外『山椒大夫』(大正4年)

・井伏鱒二『漂民宇三郎』(昭和29年)

#### 4 生活と風習

##### (1) 祭り

八尾・五木寛之『風の柩』(昭和46年) ・高橋治『風の恋盆歌』(昭和60年)

※八尾関係・吉井勇『寒行』『流離抄』(昭和21年)

城端・秋山ちえ子『二人静』(昭和55年)

##### (2) 村での生活

中田・三島霜川『枯れ井戸』(明治31年) 『村の医者』(明治37年)

『霊泉』(明治38年) 『水郷』(明治39年)

福野〔井波〕・岩倉政治『稲熟病』(昭和14年) 『村長日記』(昭和15年)

『田螺のうた』(昭和38年) 『無告の記』(昭和58年) 『空気がなくなる日』(昭和22年)

井口・池田源尚『運・不運』(昭和15年)

小矢部・稲垣一城『小説チベット』(昭和39年) ・遠藤和子『オロロのいる村』(昭和48年)

##### (3) 町での生活

富山・源氏鶏太『英語屋さん』 『三等重役』 『花のサラリーマン』 『勇気凛々』

『手鏡』 『若鮎』 『春風駘蕩』 『みだらな儀式』 『青春の旅』 『共存共栄』

・小寺菊子『父の罪』(明治44年) 『朱蠟燭の灯影』(大正2年) 『河原の対面』(大正4年)

『哀しき祖母』(昭和3年) 『父の帰宅』(昭和9年)

・久世光彦『時を呼ぶ声』(平成4年) 『早く昔になればいい』(平成6年)

・宮本輝『蜷川』(昭和53年) ・井上靖『七夕の町』(昭和26年)

・野村尚吾『旅情の華』(昭和17年)

高岡・木崎さと子『裸足』(昭和55年) 『夏草』(昭和56年) 『楼門』(昭和58年)

『青桐』 『祝賀会』(昭和60年)

##### (4) その他

・辺見じゅん『花子のくこの歳時記』(平成3年)

・青木新門『納棺夫日記』(平成5年)

#### 5 幻想と推理

##### (1) 幻想と恋情

・泉鏡花『義血侠血』(明治27年) 『蛇くひ』(明治31年) 『黒百合』(明治32年) 『湯女の魂』(明治33年) 『薬草取』(明治36年) 『星女郎』(明治41年)

・巖文兵『遠火の馬子唄』(昭和31年) 『妖盗墓』(昭和35年)

『天平のむらさき』(昭和39年)

・江戸川乱歩『押し絵と旅する男』(昭和4年)

・柴田錬三郎『蜃気楼』(昭和36年)

##### (2) ミステリー

・内田康夫『鐘』(平成3年) 『蜃気楼』(平成8年) 『風の盆幻想』(平成17年)

・森村誠一『青春の証明』(昭和51年)

・松本清張『疑惑』(昭和57年)

・小杉健治『もう一度会いたい』(平成19年) 『曳かれ者』(平成9年)

・永井すみ『枯れ蔵』(平成8年)

#### 6 社会と歴史・騒動

##### (1) 社会

- ・横山源之助『日本之下層社会』(明治32年)『貧しき小学生徒』(明治27年)
- ・新田次郎『神通川』(昭和43年)

(2) 歴史・騒動

- ・村上元三『流雲の譜』(昭和50年) ・木々康子『蒼龍の系譜』(昭和51年)
- ・藤枝静男『凶徒津田三蔵』(昭和31年・戸出騒動)
- ・西野辰吉『鍋割月・一九一八年』(昭和43・年米騒動)
- ・井上紅花『塚越ぼんどり騒動』(明治37年・ぼんどり騒動)
- ・川村久志『土曜の夜の狼たち』(昭和47年・暴走族)

【芥川賞・直木賞関係】

【芥川龍之介賞】

- ・第26回(昭和26下) 堀田善衛(富山県高岡市伏木出身) 『広場の孤独』
- ・第58回(昭和42下) 柏原兵三(父が富山県入善町吉原出身)『徳山道助の帰郷』  
富山関連作品『長い道』(疎開児をめぐる土地の少年たちの激しい愛憎を、戦争の影にゆれる海辺の村を背景に描き、少年期の鬱屈と憧憬を重厚に映し出す、自伝的長篇。  
入善町吉原が舞台) 藤子不二雄A「少年時代」篠田正浩監督 井上陽水主題歌
- ・第78回(昭和52下) 宮本輝 『蚩川』  
北陸富山での、落魄した父の死、友の事故、淡い初恋を描き、蚩の大群のあやなす妖光に生死を超えた命の輝きを描く。  
(富山市が舞台) 『命の器「天の夜曲」』『田園発 港行き自転車』
- ・第92回(昭和59下) 木崎さと子 『青桐』  
梧桐の繁る北陸の旧家で亡びてゆく肉体と蘇る心の交叉を描く。
- ・第163回(令和2上) 高山羽根子 『首里の馬』

【直木三十五賞】

- ・第25回(昭和26上) 源氏鶏太(富山市出身) 『英語屋さん』など

※【野村尚吾】芥川賞候補3回 直木賞候補2回 説新潮賞

明治45年富山市白銀町に生まれ、早稲田大学在学中から「早稲田文学」の編集に携わり、卒業後、毎日新聞社出版部に勤務し、週刊誌編集を担当した。昭和17年「早稲田文学」に発表した「旅情の華」が芥川賞候補となって文壇にデビューし、戦後、「遠き岬」(昭和25年)「花やあらむ」(昭和35年)が芥川賞候補、「乱世詩人伝」(昭和35年)が直木賞候補、「戦雲の座」(昭和38年)が直木賞候補と小説新潮賞を受賞し、「伝記谷崎潤一郎」(昭和47年)が毎日出版文化賞を受賞した。

※【啜文兵】講談倶楽部賞 直木賞候補

大正2年に金沢市で生まれ。幼い頃に父と死別し、母と石動に住み、昭和31年に『遠火の馬子唄』で講談倶楽部賞を受賞後、講談倶楽部に作品を多数発表し、「妖盗墓」(昭和35年)で直木賞候補となる。生涯で七、八十編の長短篇を書いたが、前記以外の代表作としては「恩愛遮断機」(朝日新聞・大蔵大臣賞)「越のむらさき」「天平のむらさき」「風の中の風塵」(昭和43・44年北日本新聞連載)など、その作品の多くは、氷見・能登・小矢部・砺波・富山・魚津などの郷土を舞台にしている。

※【恩田陸】

平成29年に『蜜蜂と遠雷』で、第156回直木三十五賞、第14回本屋大賞を受賞。  
小学2年から小学5年まで富山市の五番町小学校に在籍。本名 熊谷奈苗



